

## 平成 25 年度学校評価後期アンケート結果のご報告

平成 25 年度後期学校評価に関わる教育アンケートにご協力いただきありがとうございました。

児童生徒や保護者の皆様、学校関係者の皆様から頂きましたアンケートの結果から、桃陽総合支援学校の教育活動について分析・考察を行い、第 4 回学校運営協議会理

事会で報告いたしました。そして、委員の皆様からいただきました貴重なご意見を参考に、取り組んでいきたいと思ひます。

本誌面では、アンケート結果からいくつかの項目を取り上げてご報告いたします。

### 学習について

アンケートでは、小学部児童の 81.5%、中学部生徒の 75.0%が「勉強は良くわかる」と回答し、保護者の 86.0%が「基礎的な学力をつけている」と回答しています。また、小学部児童の 91.2%、中学部生徒の 67.7%が「I C T機器を使って学習することでよくわかる」と回答し、保護者の 84.0%、学校関係者の全員が「I C T機器を有効に活用し、授業が工夫されている」と回答しています。個々の実態に合わせて、I C T機器を有効に利活用していきたいと思ひます。

### 自己効力感について

アンケートでは、「自分にはよいところがある」と回答したのは、小学部児童が 50.0%、中学部生徒が 35.5%で、前回のアンケートに比べ、小学部児童は約 4%高くなり、中学部生徒は約 10%低くなっていました。

学校運営委員の方から、「少しずつ、児童生徒の満足度が上がってきている。」「初めのころは、教室に入れず泣いていた子が、子どもから話しかけてくれるようになった。」等のご意見をいただきました。

課題を持って入学してくる児童生徒が多いことから、達成感を感じたり、集団の中で個々が輝ける取組をしていきたいと思ひます。

### コミュニケーションについて

「子どもが思いを伝えること」ができると答えた保護者は 64.9%で、「相手に伝わるように話すこと」ができると答えた保護者は 53.6%で前回に比べそれぞれ 25%、22%高くなっていました。自立活動やS S T（ソーシャルスキルトレーニング）、話し合い活動等の取組により、思いを言葉にして表現する力が付いてきたと考えられます。

### 「育」支援センターについて

学校運営協議会との共催で、7月3日に実施した保護者向けの講演会・相談会には 27名の参加がありました。11月20日に実施した教職員向けの講演会・相談会には 21名の参加がありました。「わかりやすかった」「子どもへの関わり方がわかった」「ほっとした」といった感想をいただきました。

また、教育相談・不登校教育相談の件数は4～12月で56件あり、昨年度が年間で68件であったことを考えると、昨年度より増加傾向にあり、「育」支援センター桃陽の認知の広がりやニーズの高まりがあると考えられます。今後も、学校・家庭と連携できるようにしていきたいと思ひます。